

あまのり（海苔）一ふくろ送給了。又大尼御前よりあまのり畏こまり入て候。此所をば身延の嶽と申。駿河の

国は南にあたりたり。彼国の浮嶋がはらの海ぎはより、此甲斐国、波木井の郷身延の嶺へは百余里に及ぶ。余の道千里

よりもわづらはし。富士河と申日本第一のはやき河、北より南へ流たり。此河は東西は高山なり。谷深く、左右は大石に

して高き屏風を立竝べたるがごとくなり。河水は筒中に強兵が矢を射出したるがごとし。此の河の左右の岸をつたい、

或は河を渡り、或時は河はやく石多ければ、舟破て微塵となる。かかる所をすぎゆきて、身延の嶺と申大山あり。

東は天子の嶺、南は鷹取の嶺、西は七面の嶺、北は身延の嶺なり。高き屏風を四ついたて（衝立）たるがごとし。